

## 令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・主体的に学習に取り組む態度が、学習内容によっては目標値を上回った。
- ・昨年度と比較すると平均正答率は上がった。

#### (2) 課題

- ・知識・技能、思考・判断・表現が目標値を下回っている。
- ・グラフや文章題の読み取りや、意味を理解することが苦手である生徒が多い。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	「基礎」「活用」とともにすべての観点において目標値を下回っている。しかし、平面図形では一部目標値を上回るとの結果が得られた。		
第2学年	どの領域・観点でも前年度より正答率が下がってしまっている。しかし、平面図形は目標値を上回っている。	「平面図形の合同」や「平面図形の移動」の習熟度が高く、「小数・分数の計算」や「比例・反比例」の習熟度が低い。	
第3学年	どの領域・観点でも、昨年度より平均正答率は上がった。しかし、依然として、「基礎」も「活用」も全ての観点において目標値を下回っている。	どの単元も目標値と同程度か目標値を上回っている。特に「平面図形」の習熟度が目標値を上回っている。	「平面図形」「いろいろなグラフの読み取り」の習熟度が高く、「小数・分数の計算」「整数の性質」「百分率」の習熟度が低い。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数や分数の計算など、基礎的・基本的な計算に課題が見られる。また、図形の面積や体積の計算にも課題が見られる。	記述を要する問題に課題が見られる。また、比の利用にも課題が見られる。	解答の選択肢があれば、考察して課題に取り組むことができるものの、自ら説明をすることは苦手である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。1次方程式の計算や比例・反比例、データの散らばりと代表値の単元で課題が見られる。	目標値を下回っている。1次方程式の文字の表し方や空間図形の見取図や投影図などの理解が不十分である。	記号問題への取り組みはある。一方で、データの散らばりと代表値での記述問題や比例反比例のグラフをかく問題について苦手である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。連立方程式の計算や1次関数のグラフ、箱ひげ図の単元で課題が見られる。特に連立方程式と1次関数では、無解答率が高かった。	目標値を下回っている。連立方程式の文章題やグラフにおける三角形の面積の二等分線などの理解が不十分である。	計算をして解を求めたり、文章題を解いたりすることはできる。一方、計算が成り立つ理由や、グラフの特徴を文章で説明することは苦手である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識・技能が定着するように、問題演習や小テスト、振り返りを行う。 また、小学校段階の計算や公式の復習を定期的に行う。	身近な課題を考察し、説明をさせることで数学的な思考力を養う。また、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題に取り組む姿勢を養う。	課題の正誤だけではなく、自分が間違えた理由や正答へたどり着くための見方や考え方を身に着けることが重要である。そのために、ねばり強く課題に取り組む姿勢を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な計算技能について課題があるので、授業中に学び直しの機会を設けることや、未定着な生徒に対して補習の機会を設ける。また、学期に一回計算コンテストを行う。	授業中に、自力解決の時間を確保し、自分の考え（予想）をもたせるようにする。その予想が間違っていても、自分の考えをもつことができたことを肯定的に評価する。その後、数学的な見方・考え方からみて、その予想がどうかなどの声かけを個に応じて行う。	テスト直しを用いて、自分の間違いを振替させる機会を設ける。振り返りシートを活用し、自身の苦手分野を把握し、復習する習慣を身に付ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関連のある単元において、復習を行う。また、グループでの教え合い活動などを行い、わからないところを聞きやすい雰囲気をつくり、理解を深めさせる。基礎基本が定着するように、問題演習、振り返りを多く行う。	発展的な問題も、基本事項を活用することで解けるようになるということを実感させる。また、なぜそのような解法になるかを考えさせ、仕組みを理解させる。そして、理解したことを説明させることで、深化を図る。	その解き方が成り立つ理由を考えさせる。また、日ごろから、疑問点を出させ、解決することで理解が深まるという学習観を培う。ねばり強く考え、自己調整学習ができるよう促していく。